

観光立国を先導する世界トップクラスの 観光地域づくりに向けて

観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくりセミナー in 檜山

～自然が生み出す造形美、古(いにしえ)の文化と海・地の恵みあふれる
檜山から観光を考える～



江差 いにしえ街道 出典:江差町

国土交通省 北海道局

令和7年2月21日

第9期北海道総合開発計画

目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道

～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造

～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

第9期北海道総合開発計画の主要施策(観光)

「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」

主要施策の実現に向けた施策の基本的方向

(1) 世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上

・観光の高付加価値化による「稼ぐ力」の向上

・自然や歴史文化を掘り起こして北海道の可能性をコンテンツ化するとともに、それらを相互に連携させることで新たな観光コンテンツとして創出・拡充

(2) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備

(3) 自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり

・先人たちが守ってきた地域の価値を高め、保存し、次世代に受け継ぐことで、観光を地域の経済や社会の持続的発展につなげ、地域住民が観光による恩恵を実感できることも必要

「世界トップクラスの観光地域」とは、

そこでしか得られない「特別な体験」が地域にあることに気付き、それを観光資源として活かしてビジネスへと高め、地域が一体となって支え合っている地域。

「地域共創の取組」の重要性

北海道の価値を高めるとともに、地域が直面する様々な課題の解決を図るために、多様な主体が総力を結集し、分野を越えた連携・協働により、新しい価値を生み出す「共創」の取組を進めています。

○ 計画の実効性を高めるための方策

官民の垣根を越えた「共創」

社会変革の鍵となるDX・GXの推進

フロンティア精神の再発揮

戦略的・計画的な社会資本整備



基調講演 五十嵐氏



パネルディスカッション



関口氏



川瀬氏



山田氏



会場との意見交換

↑ R6年9月に松前町で開催された地域共創キックオフミーティングの状況(主催:函館開発建設部、渡島総合振興局、松前町、奥尻町)

概要掲載はこちら

https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/tiiki_sinkou/eqp9bq00000000h0-att/v151sd000000e7rr.pdf

観光地や港湾・空港からの2次交通の強化

<観光地や空港・港湾からの二次交通の強化>

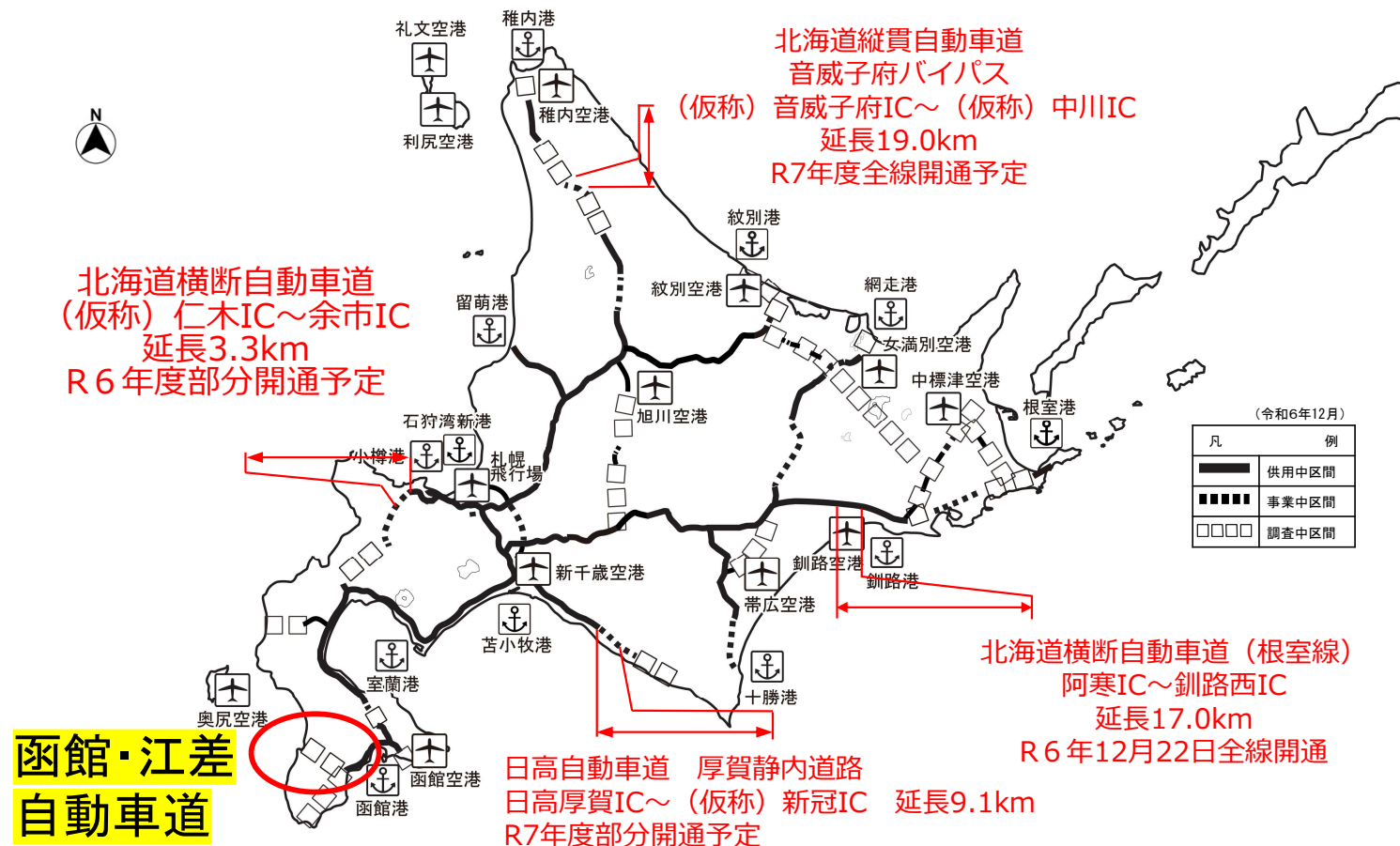
【現状・背景】

- ポストコロナにおける観光客数の回復・拡大に向けて、空港等拠点からの二次交通を支える交通ネットワークの強化が必要。
- 広大な北海道における移動の定時性・速達性の実現により広域周遊観光の魅力向上に努めることが必要。
- 北海道横断自動車道網走線・根室線等の整備により、主要観光地への更なるアクセス向上に寄与し、道東地域への観光客増加が期待される。
(北海道横断自動車道根室線阿寒IC～釧路西IC間【令和6年12月22日開通】等)

【取組】

- 観光地や空港等への定時性・速達性を向上させる高規格道路等の整備を推進。
- 地域活性化ICを始めとする追加ICの整備を推進することで、観光地や空港等のアクセス性をより向上させ、周遊観光の活性化を促進。

空港等拠点からの二次交通を支える高規格道路ネットワーク



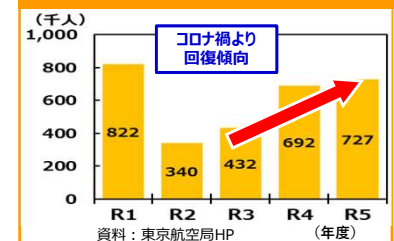
事例紹介

北海道横断自動車道の開通区間に伴う効果

一般道利用	6 ^h 36 ^m
本別IC～浦幌IC 開通後	5 ^h 36 ^m
夕張IC～占冠IC 開通後	4 ^h 53 ^m
浦幌IC～白糠IC 開通後	4 ^h 32 ^m
白糠IC～阿寒IC 開通後	4 ^h 19 ^m
阿寒IC～釧路西IC R6年12月22日開通	4 ^h 12 ^m ← 2時間24分短縮

資料：令和3年度全道道路・街路交通情勢調査 ※札幌市役所～釧路市役所間で算定
※阿寒IC～釧路西ICの旅行速度は70km/hで算出

釧路空港乗降客数



＜「シーニックバイウェイ北海道」の推進＞

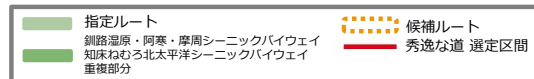
- 「シーニックバイウェイ北海道」において、魅力ある道路景観を地域の重要な観光資源の一つとして確立するため、特に魅力的な区間について景観の維持・形成、情報発信を重点的に推進するシーニックバイウェイ「秀逸な道」の取組を引き続き推進し、地域との協働を通じて生産空間のコミュニティ維持を推進する。

■ シーニックバイウェイ「秀逸な道」選定区間

「並木のウェルカムゲートを抜けて絶景へと至る道」



「北太平洋と湿地の風土に息づく自然と漁業の道」



【取組】

■ 道路管理者による道路附属物の集約



■ ドライブ観光の促進に向けた取組



シーニックバイウェイの活動
団体や関係機関が参集し、
清掃活動を実施



▲6月の花植活動状況。昨年度は、約150名が参加し、約7,500株の花苗を植樹帯に植えました。



▲7、8、9月には、全体維持活動日を設け、雑草取りや水やりなどを行い丹念に手入れを行います。

函館・大沼・噴火湾ルートの花植・維持活動の状況

「汐風薫るいにしへの道」

＜サイクルツーリズムの推進＞

- 世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境やサイクリストの受入環境の改善、情報発信等の取組を推進する。

【現状・背景】

- 「世界水準のサイクリング環境」構築に向け、令和元年8月に北海道サイクルルート連携協議会を設立し、北海道のサイクルツーリズム推進方針を策定。
- 令和3年5月には日本を代表するナショナルサイクルルートに「トカプチ400」が指定。
- 協議会では、令和6年2月に「どうなん海道サイクルルート」を新たに追加登録し、現在、全道10ルートにおいて受入環境整備等の取組を推進。

【取組】

- 全道各地のルート協議会で策定されたアクションプランにより、民間と行政が一体となってサイクルルートの受入環境・自転車走行環境の改善、情報発信を推進。

走行環境改善：路肩拡幅、ルート案内看板・矢羽根路面標示設置等
受入環境改善：ゲートウェイ（ルートへの入口となる拠点施設）におけるサイクルラックやトイレの設置、休憩施設の設置、サイクリスト応援カーの実施等

情報発信：ホームページでのルートPR、フォトコンテスト等

- 「トカプチ400」では、ルートやイベント情報の発信や手ぶらレンタサイクルの取組等も支援。

■ルート協議会の登録状況

「北海道サイクルルート連携協議会」（令和元年8月設立）にて、質の高いサイクルツーリズムを提供する団体（ルート協議会）を募集。



■サイクルツーリズム推進に向けた取組事例

●走行環境改善の取組

路肩拡幅を行い、サイクルルートの自転車走行環境改善を実施。



●受入環境改善の取組

民間企業と連携し、サイクルラックを設置



パトロール巡回中に自転車用工具等を無料で貸し出すサイクリスト応援カー



●情報発信の取組

サイクルルートを周知し、サイクリストに訪れてもらうためのきっかけづくりとして「フォトコンテスト」を開催。



【ナショナルサイクルルート「トカプチ400」の取組】

「トカプチ400」専用ホームページを開設し、ルートやイベント情報を発信



空港で荷物をあずけ、そのまま自転車で観光できる「手ぶらレンタサイクル」



連携協議会：北海道開発局、北海道運輸局、北海道、北海道商工会議所連合会、北海道観光振興機構、シニミックパイウェイ支援センターにより構成
ルート協議会：質の高いサイクルツーリズムを提供する団体。市町村、総合振興局・振興局、開発建設部、民間事業者団体（観光協会、商工会議所等）、自転車関連団体等により構成

＜インフラツーリズム等の推進＞

- インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを展開し、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与する。

【現状・背景】

- 平成25年度から「ツアー向け見学校の公開」、令和元年度から「地域共創インフラツアー」（旧「インフラわくわくツアー」）を実施。
- 「インフラツーリズム魅力増進プロジェクト」のモデル地区に選定された白鳥大橋（室蘭市）において、令和3年7月より地域主体によるツアーを実施。令和5年8月にモデル地区に選定された青い池：美瑛川ブロック堰堤と十勝岳火山砂防情報センターの地域（美瑛町・上富良野町）が主体となり、「インフラ・ジオツーリズム」ツアー造成等を推進中。

【取組】

- 地域発展のストーリーや関連するインフラの情報等、地域への理解を深める魅力的なツアーメニューの提示、モデルツアーの実施等により、インフラツーリズムの取組を推進。
- 地域の観光関連団体・自治体による取組を、インフラ施設管理者の立場からサポート。

【インフラツーリズム】

ツアー向け見学校を活用した
コンテンツの提供



インフラ施設と周辺観光施設を
組み合わせたモデルツアーの実施
(白鳥大橋)



地域主体のインフラ・ジオツーリ
ズムへの支援(青い池)



＜北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産＞

- 北海道・北東北の縄文遺跡群は、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した縄文時代の人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産であり、令和3年7月27日に世界文化遺産に登録された。
- 旧石器時代から縄文文化、アイヌ文化及び近代の開拓へと続く歴史的資源を活用した受入環境整備を推進。

【現状・背景】

- 縄文遺跡群は17遺跡で構成されており、北海道内に6つの遺跡群が存在。
- 地域の博物館や縄文遺跡等地域資源の活用及び地元ガイドの育成などに向けての地域づくりが展開されている。
- 観光客の来訪に備え、周辺のインフラ環境の整備・改善が必要。

【道内の各遺跡の位置図】



(出典：北海道庁HPから北海道開発局作成)

【国宝「中空土偶」】

昭和50年、函館市南茅部地区(旧南茅部町)で発見。平成19年に北海道で初の国宝に指定。高さ41.5センチ、幅20.1センチで、国内で出土した中空土偶としては最大。



(北海道開発局撮影)

【縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会】

伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム(事務局：室蘭開発建設部)により「縄文遺跡を活用した地域づくり勉強会」における研修会を開催。



【取組】

- 平成23年に垣ノ島遺跡が国の史跡指定を受けて以降、臼尻漁港の臨港道路整備に係る景観について検討。検討結果を踏まえ、景観配慮型の臨港道路整備を推進。
- 大船遺跡へのアクセスが向上する尾札部道路の早期整備や広域的な観光周遊を支援する案内標識の設置、関連事業の推進により世界文化遺産に登録された地域の受入環境の整備を支援。

【臨港道路の景観検討(垣ノ島遺跡)】



【案内標識の設置】

広域的な観光周遊の支援のため、「北海道・北東北の縄文遺跡群」のピクトグラムを活用して周遊ルートに案内標識を整備。



【国道278号尾札部道路の整備(大船遺跡)】



供用中区間



大船遺跡

＜サステナブルツーリズム等の推進＞

- 地域と連携した観光地の交通マネジメントや環境に配慮したドライブ観光等の取組により、持続可能な観光地域づくりを推進する。

【現状・背景】

- 観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、過度の混雑による旅行者の満足度低下の懸念が生じている。
- 環境に配慮したドライブ観光を推進し、EV自動車等の普及を促進させるため、市町村等と連携して「道の駅」での急速充電施設の設置の普及を目指す。（令和6年12月時点 58／128駅）
- 北海道の地方部の多くは、宿泊施設や滞在型の観光コンテンツが不足しているため、通過型観光となっている。

【取組】

- 国と地域の関係機関が連携して、観光の最盛期に発生している渋滞の緩和に向けた取組を地域主体で実施。
- 「道の駅」への急速充電施設の設置を推進するため、道内の市町村等に設置事例や支援制度に関する情報を提供するとともに、勉強会を開催し、相談に対応。
- 地方部の滞在型観光を促進するため、関係者と連携し、民泊等宿泊施設の課題解決方策を検討するなど、地域が一体となった受入環境構築を検討。

「道の駅」を活用した次世代自動車の普及促進

【道の駅でのEV充電状況】



【施設案内標識】



北方領土隣接地域が一体となった受入環境構築による滞在型観光促進の取組

- ・北方領土隣接地域の滞在型観光促進のため、民泊等宿泊施設など旅行者受入環境に係る課題を分析の上、地域が一体となった解決方策を検討し、受入環境構築を図る。

地域と連携した観光最盛期の渋滞対策の取組（中富良野町）

- ・観光最盛期の渋滞緩和に向け、車線の一部区間を2車線化する臨時車線運用及び道路情報板による注意喚起を実施するとともに、町内の商業施設駐車場を活用したパーク＆バスライド・サイクルライドを実施。

